

しゃろーむ

学園だより No.27

■発行人・発行所／
学校法人 北海道カトリック学園 理事長 勝谷 太治
札幌市中央区北1条東6丁目10カトリック札幌司教館内

息子に甘すぎるとも思えるこの父親の姿。しかし、これこそ私が私たちに對する神の姿である。とイエスさまはあえて言われま



「ごめんない」は言えませんが、自分の内にも傷つけた相手への「ごめんない」は言えま

ゆるし



理事長 勝谷 太治

つい最近、「しつけ」の在り方を考えさせられる事件が起りました。ルカ福音書15章には

「放蕩息子」といふ話。父の生前分与を受けた息子が家を飛び出し、放蕩の限りを尽くして身をもち崩し、すべてを失って食べるにも困るようになった時、食べ物のあり余っていた家を思い出して、父のもとに帰る決心をします。家からまだ遠く離れていたにもかかわらず、父は息子を見つめ、彼が用意していた謝罪と言いつつ、口上を聞こうともせず、ただ無事を喜んで家に迎え入れ宴会を開きます。



ライラック

～あの日の香り～

岩見沢天使幼稚園 園長 風間 美恵



ふとした香りの中に幼い頃を思い出すことはありませんか？ 生活の中にあつた香り・・・大切な人だったり、楽しかった思い出だったり。香りから懐かしさを感じるという情緒は日本人の心の原点にあるような気がします。

幼少期を過ごしたふるさとの庭先には、一本のライラックが植えられていました。狭い庭に似つかわしくないほど、たわわに咲くその花からは、甘く優しい香りが・・・何度も何度も深呼吸しながら、子ども心にもやっといい季節がやってきたと心躍らせていたものです。枝ぶりのよい一枝を部屋に飾る母の笑顔も、温かく一緒に蘇ってきます。花の形の記憶は曖昧でも、その香りだけは鮮明に色あせることのない、幼い頃の母との記憶でもあります。



フランス語でリラとも呼ばれるライラック。花言葉は『思い出』・『友情』・『謙虚』。大切な人を思うにはぴったりの花かもしれません。花びらは通常4枚ですが、5枚になっている花を見つけて黙って飲み込むと、愛する人と永遠に過ごせるという言い伝えがあるそうです。本当かしら？ 来年こそ、こっそり試してみることにしましょう！！

「未知なるものとの出会いを支える」

藤女子大学人間生活学部保育学科 准教授 高橋 真由美



学生を引率していったのですが、M君の表情はきつと幼稚園のみならず、実習先の幼稚園での出来こわばり、「ありさん、怖い、仲良しになりたいから遊びに座った3歳児のM君がこで「ありさん、きつと美味と、言ってみたところ、少し地面に視線を向け、じつとしいものないかな？つて一考えた表情で「ありさしてしています。最初は何か観生懸命探しているんだよ、ん・・・」とつぶやきました。察でもしているのかな？ 忙しそうだね」と、言ってみ M君はなぜこんなに蟻をと思ったのですが、M君の表情が少し怖がったのでしようか。M表情に注目すると、何かにだけおそれたのですが、その足元でせつせと動いておびえたような様子でし の時、1匹の蟻が、M君の足 いた蟻の数はかなりのものを上ってきたのです。「いや でした。もしかしてM君は 「M君、何しているの？」 だ〜〜こわい！！！！」M そんなに多くの蟻を見たこ と声をかけると、「あ 君は尋常ではないくらいお とがなかったのかな？と思 びえた様子でした。すぐに いました。人は見たことな M君の視線の先を見ると、 蟻を払いのけてあげたので ないもの、出会ったことの たくさんの蟻が地面を すが、M君は泣きそうです。 ないものに警戒心を抱く生 行ったり来たりしていま その様子から、このままこ き物です。M君にとって、 す。M君の警戒心を和らげ こに居ても仕方がないと思 「蟻の集団」は今まで出会っ ようと思いい「M君、ありさ い、M君の手を握って「あつ たことのない未知のもの なんだね、ありさん、どへ行 ち行こうか」とその場から だつたのではないでしょ うののかな？」と、話しかけ 連れ出そうとしました。と か。自然の中では、このよう ころがその場を離れるため な「未知なるもの」と出会う には蟻が行ったり来たりし 機会が多くあると思いま ているところを通らなけれ す。この「未知なるもの」と ばなりません。M君はベン の出会いを繰り返して、子ど ちからなかなか立つことが も達は自分の世界を広げて できずに「こわい、こわい」 いきます。大人として、子ど を繰り返すばかり。それで もの「未知なるもの」との出 会いは、その場を離れる 会の機会を保障し、その ことができました。蟻のい 出合いを「素敵なもの」とし ない場所に移動して少し落 て認識できるようになかかわ ち着いたM君に「ありさん、 りをしたいものです。

一粒の種

カトリック聖園こども家 園長 辻 淑江



こども園では毎年5月中旬に、ク ラスごとに赤かぶ、えんどう、人 参、じゃがいも等の野菜の種を畑に 蒔きます。先生から小さな種にも命 があること、可愛がつてお世話をする ことで元気に大きく成長するなど の話を聞いてから、こどもたちは、 先生から分けていただいた小さな種 を、可愛い手のひらに握りしめ、畑 の土に大切にひと粒一粒を真剣にお いて、そつと土をかけた いきます。毎日「早 く大きくなってね」と 話しかけ、水をやりながら成長を楽しみにし ています。 一粒の種をまき、大 切に育て、収穫し、食 するこつによつて子ど もたちは、優しき、思いやり、命の 大切さを感じていきます。始めは 「人参嫌い」「ピーマン嫌い」と 言つて食に対して偏見があつた子供 たちも、今では「おいしいね」と感 謝の気持ちで食べられるようになつ てきました。この様な感謝の気持ち をこの幼い時期に自然に身に着ける こと、そして、家族で食卓を囲ん で、親が子どもの話に耳を傾けうな に感じた瞬間でした。 が皮だけになつてしまつたのを見 て「どうして皮だけに」「お母さ んイモどこへ行つちやつたの」と の声。お母さんイモの話聞いた 子どもたちは、「お母さんつてす ごいね」「お母さん、ちよつと可愛そう」などと驚きいっばいの子どもたちと、自然の営み、自然の道理、秩序、神さまのみわざを共 も似ています。 昨年、年長クラスで じゃがいもを植え、秋に 芋ほりをした時のこと です。土の中から大小様々のじゃがいもが顔を出し ました。お母さん種イモ にも似ています。 今、畑の野菜は、こどもたちの 愛情を沢山うけて、元気に育つて います。こどもの野菜を育てる姿 は、産声をあげたばかりのわが子 を愛おしく胸に抱く母親の姿、そ の土の成長を見守り大切に 育てている母親の姿に 似ています。 今年、年長クラスで じゃがいもを植え、秋に 芋ほりをした時のこと です。土の中から大小様々のじゃがいもが顔を出し ました。お母さん種イモ にも似ています。



真駒内聖母幼稚園

三好 加奈子



笑顔いっぱい

さんぽみち

大人になった卒園生が時々訪れては、「全然変わらないね。」と懐かしそうに言う真駒内聖母幼稚園。豊かな自然に囲まれた園庭は、今も昔も変わりません。朝、子どもたちはこの園庭でのびのび遊びます。「先生みて〜!」と満面の笑みで差し出すプリンカップの中には、ひしめき合っている黒い物体。だんご虫(時々わらじ虫)です。この春のブームは何かと言ってもこの「だんご虫!」男の子は競うかのように、石の下・レンガの淵…カップ片手に「宝探し」に夢中です。一方、女の子の手に握られているのは、たんぽぽや忘れな草…園庭に咲く可憐な花たちを、包装紙にくるんで花束作りです。「お母さんにあげるんだ。」「マリア様にあげるの!」と嬉しそう。畑には、子どもたちの植えたじゃがいもや枝豆、かぶなどの可愛い芽が顔を出しています。外での活動を通し、神様からの豊かなお恵みを感じ、小さな命を大切に育つよう願っています。この週は「お道具箱をきれいに使いましょう!」自分たちの使う場所は自分たちで整えられるよう、小さな気づきを大切にしながら、これからも日々取り組んでいきたいと思っています。



苦小牧聖母幼稚園

カレーライスクッキング 青山 邦子

今年も、幼稚園の中庭の梨の木に白い花が満開でした。その木の側の畑には春に植えたじゃがいもの葉が元気に緑色に輝いています。

9月には大きく育ったじゃがいもを収穫して、みんなの大好きなカレーライスを作ります。お肉や人参、玉ねぎ、カレールーは年長さんが一人ひとり自分でお金を払って買い物をします。梨もぎも年長さんのお仕事です。

カレーライスクッキングの日には、エプロンとバンダナを着けた子どもたちは手をきれいに洗ってお米を研ぎます。ぎゅっぎゅっ。野菜もきれいに洗って、ピーラーでじゃがいもや人参の皮むきをして、包丁で慎重に切ります。年長さんは涙を流しながら玉ねぎを切っています。切った野菜やお肉を大きな鍋で炒めて煮込み、一人ひとつカレールーを入れて、園内はおいしい匂いでいっぱいです。

出来あがったカレーライスは年長さんが採った梨とっしょにみんなでおいしくいただきます。自分たちで作ったカレーライスは特別に美味しく、毎年おかわりをする子の長い列ができます。

今年も秋の収穫とカレーライスクッキングを楽しみに子どもたちはじゃがいもと梨の成長を観察しています。



岩見沢天使幼稚園

お母さんたちに学ぶ 土田 雅美

幼稚園の先生になって、初めて受け持ったクラスは年長40名。日々の生活では子どもたちは元気いっぱい。彼らに追いつこうとひた走る毎日でした。子どもとの対応では、決してスムーズではなく、新米先生に可愛い我が子を預けることに不安も感じていたことでしょう。

手探りながらも走り続けて半年が経った頃、お母さんたちがかけてくださった言葉。

「先生!笑顔も増えてきてもう大丈夫だね!!」…この言葉が私の今に繋がっています。おそらくその後も、お母さんたちの心配は続いていたと思います。でも最後まで見守り、子育てと同時に担任としての私も育ててくれたことに心から感謝しています。「見守ることは育てること」だと、お母さんたちから学びました。

私自身も子育てを経験し、笑っちゃうほど時も流れ、おばあちゃん世代に近くなりました。かつての子どもたちが今、お母さんとして我が子の成長を見守っています。

時が流れても変わらないのは、「見守ることは育てること」。今なお、お母さんたちから学べることに日々感謝しています。



大麻藤幼稚園

神様のことを知る 今井 香織

「幼稚園で覚えたお祈りを家や外出先でもしているんです。この前は食事の前の祈りを外食先でもしていましたよ。」という話を、何人かのお母様から聞いたことがあります。少し恥ずかしそうに、でも嬉しそうに話してくださる姿を見ると、祈りが子どもの中に根づいているのだなと、心が温かくなります。

幼稚園は多くの子どもにとって、初めて“神様”や“お祈り”を知る場になると思います。入園当初は保育者や友だちがお祈りしている姿をじっと見ていただけの子どもが、数ヶ月後にはしっかりと手を合わせ、自信を持って祈りを唱えている姿を見ると微笑ましく、また嬉しく感じます。

年中長児は月に2回、園内の小聖堂で保育者から“神様のお話”を聞きます。今年度は5月中旬から始まり、初回は「世界を創られた神様」のお話でした。「この世界は神様が創ってくださったんだよ」と話すと、「知らなかった!お母さんに教えてあげよう!」と言う子も。これからはカトリック幼稚園として、また神様を知る初めての場所として、保育の中から神様を身近に感じられるように、子どもたちに伝えていきたいと思っています。

